

S03-3 納得医療：その治療、あなたにとって正しいですか？

○嵯峨崎 泰子¹

¹日本医療コーディネーター協会

医療コーディネーターが目指していることは、予防的健康相談の実践により、病気や生活障害を防ぐ「事前介入」である。まさに、ill-healthゾーンでの活動である。医療コーディネーターの活動を支えているのはマインドとスキル。コーディネーターは当事者の存在そのものに関心をもっている。当事者であるクライアントへの関心を通じた関係性を構築することで、真の当事者主体となり得る意思決定支援と生活支援が可能になっている。このような事前介入の効果は、当事者や家族が十分納得のいく意思決定ができるということにあらわれてくる。今後は、事前介入の取り組みを誰もが地域で展開できるように、生活者のヘルスリテラシー向上に取り組み、医療コーディネーターがスーパーバイザーとしての活動を支援していけるようにしたいと考えている。今回のシンポジウムでは、当事者の立場にたった意思決定支援と生活障害、特に経済的負担の軽減への取り組みを、ケースを通して紹介する。ケースをみると医療者が当事者の本音を聴くことができていないために、当事者の生活が追い詰められていく状況、また、当事者が医療者に何をどこまで伝えればいいのか分からずにとまどっている現実がわかる。このような隙間をうめていくためにはどうしたらいいのか、どのような働きかけが当事者の本音を引き出すのか、当事者が納得のいく意思決定とは何なのかを、皆さんと一緒に考える機会になればと考えている。